枯尾華

下

ヘ 5
2095
2

利5
門
2.095
巻

天和飛
多洲
図書

十月廿五日共枕隣出武江而暨
義仲寺望芭蕉翁之墓歎唱（メイカツス）（ナゲブ）

いつのかの風のうしろ高のとり
ねてみしもうの春よりの枝よりち
笠ヨ眠り小蓑の病つねの浮世をふる
ふ
ねるとしらのうなかの
ちく樂ありてやいきおのるなのる

明治文庫

遠き境の人々
いかのしたるかや江都の心色
尽せるもいかに色とこころくの席をか
まへて追善興行のつとめ他の縁よ
ひろひの所ものく儀を志色
更生まとしたる大和尚寛
うみて嘉月七日ゆめつよの花午
義仲寺の家上午ひさすがく空華

義しかるにこゝろ
ひろく拾ひ万義をくはるは所ことの
乃ちあるをくらつくを利し他を利し
諸千其外不習（モトラ）人もあるのくらも
ぬへよくく
迷ひまうくゝ拾ひつゝん雪仏

嵐雪拝

十月廿二日夜與行　　嵐雪

十月をゆめかりとやはらぐる

たらよの中る一節の魚　沙也

溢のまろ二るハ五里くゝ　百里

立ちをんを凡ある泊の舟路　神叔

ろ風ハつゝみ白ゝ　ゆ　祇　東潮

古鶏鳴ひて豆ゆ　ゆ　浮生

蜀黍の実ふとぶ畑中　卜宅

ゆ者あるとまて土をある　舟作

秋川よりこえつゝ桐の雨

面のつる月を照くとゝ　月下

樹刻のあをあ田植ゆる　風洗

稻午はゝのゝ　ゆ　干鰕（エビ）　撥下

孫宋の茶の匂ひ近ゝ　咸宇

赤い菊ゝ黄なの菊を嗅　牧人

上郎を吟ゝ　ゆ　秋の風　嵩歌

ゝとなりて席をとる身　張鈎

ちゝも翁みつゝ　ゆ　凡　東溟

山吹もうつろひ初るを見れば　春
雪
春雨のしのつくなかに咲そめて　海棠
氣和のうらゝ時ハ春ぞ　百里
呉服の四十の内の楽坂を　氷花
春の景ひとしく高砂　嵐雪
うたひ出て孫の鼎ぬし　神叔
佐保の山おのが出初鶯　東陽
高宮の高雪切れて流るゝ　百里
雪の近くゝ流るゝ　神叔

傘の下ゆきまくらく傘いなの下　吹雪
春雨ふる世の氣色と　氷花
あくるの風吹煮ゆるの　東陽
先達のまゝ師走ぶつく　百里
春雨をうつゝ大立者　沖叔
中山道ハかゝりて　嵐雪
一番を米の價のとゝ　百里
ゝ原代もあると酒る　老　氷花
世ゝいまのあつの墓の　雪迹

[illegible] 緑子

満座追善各焼香

なのはなの[illegible]も四季の孫ぞ　百里

見おさめの[illegible]いつはちすの　氷花

悔前非

[illegible]　神叔

苦しまぬ[illegible]の雪　浮生

風の[illegible]　舟竹

[illegible]　咸宇

[illegible]　[illegible]

[illegible]　東陵

[illegible]　素行

芭蕉翁みちのくの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　安適

十月廿二日與しり

好人と多くの孫よりつと遠旅

巴ヶあり乃てをちかたをひよりて

伊やまのいを素のあとおさら 桃隣

洗くうちよりの色北日の紅 子珊

面て部あれ小松ゆやを 杉風

よこ[illegible]一夏川幽蛍 盛水

名残い多餘ゆ[illegible]ぬ[illegible]り 芳良

ぶこやら 姫よ野の 惟子 序志

絶蕨(サウ)(ケツ)(シサヤマメ)

卯月て八日 古稲乃蔵 亀水

山ものよ今の俳歌悟て 孤屯

と里ちい景の 塩原 子祐

は寒さあれ雪のる 曇 利牛

お綿の重とのもの 白之

省戸俳ものくを 蛇 蛭臣

打角されて 堀のう 雪堂

やあくよ平泉ちる月 蛙堀

丈幅せてふく布の巻絡　太洛
素白なる隠い流く岸の花　八葉
俳のうち魚よ燕あつまる　桃川
そろくとあるさなの西ませてもの白　利合
屋おけりて菖のこけ登根　蹴く
酒をそ千なるうち笠亜川　文梁
此見おとふて紙鉢をもい　湖松
ひろのくへをうかよれてよた　桐奚
赤のあるあを小利なる住ム　嵐或

丁寧よみ挑灯て邑らうし　石菊
凡なる雪の柳地あく　ちり
梅のはる苦敵さうかいまりて　嵐仆
自みを杵のセリあき　此筋
あるまくをよる経奢る月の有　素龍
以脚うくり年ふる秋凡　千川
よいくと柴はり多ふ菊の影　楚舟
流を手伝く雨ありて　角蕉
形なるう六五麦よ塩を搗へ　杏村

紙を白髪のかなる年　川鴎
凡閑ケ丘のうらなる花微笑　濁子
香をむすんで紅うるうる　滄波

寄仏蒲萄普音之吟

うらむらん仏もなりや秋の身　杉風
指を折もかもかなるかぶし　八葉
見ぬ世迄指折よるの秋の夢　子珊

見るもうらん陣をうつん屋の松　太太
秋ふるぬ新おのれのきりぎす　洒松
菊うれく白を惜む居士衣　子珠
山茱萸を塚の彩る桃もやん　左治
うらん便りく絵うら素もの　序志
葉のもも白ひもの向んうらも　亀水
凡遠り長ものの成うらの氣　李里
骨肉のうるゆるうるの心の　楚舟
表ゆて蓋を居のちるの外　風弦

[illegible]ひを包みかねる赤蕗　桃川
[illegible]花[illegible]牡丹　朋[illegible]
[illegible]や出[illegible]咲く苔の下　[illegible]好
[illegible]言を思ひ[illegible]の[illegible]向ふ　用陽
[illegible]の[illegible]の[illegible]の柑柳　杏村
[illegible]の[illegible]やい[illegible]花[illegible]も　石人
むせかも芦の枯葉の焼きり　芳良
[illegible]色[illegible]縄床[illegible]　滄波
[illegible]仏　[illegible]向ふ　角蕉

義仲を送る悼　法眼

[illegible]さて[illegible]川　李吟
告[illegible]死[illegible]の山　露沾
花[illegible]とも春[illegible]　山夕
錫杖[illegible]　直方
[illegible]月[illegible]　啓[illegible]
[illegible]撥ハ[illegible]　濁子
[illegible]　壺蛙
[illegible]白い卒都婆[illegible]　山蓬

[illegible]しのるや十余年この家
小庭や[illegible]の凍へ　涼葉
[illegible]の[illegible]や十夜の[illegible]　大舟
[illegible]をみるやいく祖の[illegible]の初霜　九板
立[illegible]を心[illegible]る塚の[illegible]　此筋
力艸引切[illegible]　千川
[illegible]　淵泉
拄杖の[illegible]　支老
[illegible]を菊乃咲[illegible]る　卜子
拾遺　拾系

[illegible]を菊八戸口より[illegible]る　真井
こゝ形丸菴の[illegible]蓋み指の[illegible]　波勅
何のゝの何ゝの[illegible]　拾遺　蓬山
五十二[illegible]ゆ[illegible]一[illegible]の[illegible]　[illegible]
形[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]谷
[illegible]の塚[illegible]　拾遺の[illegible]　龍子
心[illegible]を瀬[illegible]凝つく用の[illegible]　雷夏
風の声[illegible]拾[illegible]　素龍

十月サラの追善　湖春

赤ゐもみぢ　まく　ぬきの水浮　撥

一羽ばたき　よ　亮の朝鳥　素乾

飛縄　縮　する　日　辰　嘉治

蛙の音　ひゞく　ぬ　浮水

新　み　ぬ　ぬ　蓋の　桃隣

蓮　の　も　川　上　ゆ　岱水

ウ

ゆ　ら　い　物　さ　ら　ま　人　つ　ん　蛙水

わ　ろ　く　雨　の　赤　も　四　五　所　孤屋

ゆ　の　形　よ　ま　て　巻　ら　百合　の　色　利牛

竈　の　火　ら　て　落　ら　て　家　セ　杉風

ま　ら　ま　ま　ま　ま　い　ま　ま　ま　の　死　所　素堂

帆　ま　ま　ま　舟　い　ま　ま　し　ま　ま　筆

山　ま　ま　ま　ひ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　利合

盆　ま　ま　ま　ま　ま　ま　急　ま　ま　ま　蛙城

膳　所　の　月　行　隅　も　な　く　思　ま　り　岱水

二　ま　つ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　桃隣

ま　ま　ま　老　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　杉風

酒よりくすかつらく　利牛
すつをつをおろ奥方奥　孤屋
立くつ迷ふる雨の故　狂水
加あのよりのきけい蔵も苦多ル　桃隣
子たの物のくく　拝園　利合
毛この物借り返す力なく　破坡
寿氣　ふちちのも　杉風
物事のちちふ春光月　利牛
財布てめつ洞ふふ　孤屋

の鮒の上くなる配り鮒　紙水
見れ見れ見れ振りのなる　桃隣
山くを仕陸の者ゆ洗せて　杉風
本の毎りる　蒐　義翁　破坡
言の本の並ひ　移涼　孤屋
小あけをけてゆ　利牛
二二仲野上ろ乃物ち　破坡
京白の礼をふ　紙水
袖千今師の好るもの枝　桃隣

さら憐美ふるさとの夕昏　利合

十月廿三日

晉子亭にて眞如

今さらも雪のさゝぬの光彩　仙化

かつてせみよ森して並ん鴨　是吉

あゝ月黒よ衣敷い紅純て　介我

拭ひのこる階乃くゝ乃　柴雪

つゝの柏樹(イフキ)を二ツ見　湖月

昼の嵐の穴さ口ゆくく　沐牧

その向も世の陽の日をうけて　揚水

力もよわく紅ちる音　枳風

ゆくへを迷く召ゝ明るゝの内　由之

雀の梅も沙乃ゝゝ　全峯

日の原て玄米の屑ハ泥の行　沾德

むくもてう梅の花　李下

合羽なのよるゝ鶏く面黒　水牧

小倉百人一首

扇うち置きし秋の月の影　柴雪
側のうちとろ白ひとつの色　仙化
あの色は白菊と舟ぐれ　扇の
ちいさな松のひむかしの人　事下
あを貝の草もみてものの色　陽月
日光　梶の側の芳飯　柴雪
如こするを忘れ年の程　介我
多年のあくハ名やう判ず　非叛

多年あとへ入すえ茶入袋　松風
ちいさな蹴キヒスの中ハ二寸の紙　陽月
蓋のごとき蓋を並べて情を　介我
ちるを土戸のそばむ口元　治德
うるこの所くをけうり　仙化
生きしるみをを悪の入物　扇の
年の月の烏帽子の乳の直ヲ　事下
二ツ　扇て並ん虫多　全峯
壺ものく多の袋の小茶喰　非叛

つるみて猶よたりつる四ム　朱由之
肩癖のあるよりしらんら　仙化
門一つ見るうる牛除るる　介我
常あえむ連歌拍むの花の多　沾德
但七夕桃をくんの敎まし　湖月

深草のあきれ宗祇の土を讃し
いたるよや友に風月ヲ家に旅ヲ泊ヲと
芭蕉のおもむきを例らう
旅の旅つるる宗祇の跡ヲ　素堂

為家卿の人や為家の展ぜ人　沾德
姫冥のあるを彩あり　枳風
風のあるを猿乃面　介我
月雪の色ひの土や世の紙　当吟
物の笠いつ是を映乃面うる色　湖月
風のあるいやうの所ところ　柴雪
弱るれ笠のうるみ　暑子
ものるを根さしいおるうを　拙ム
帰を菊まもうる乃翁うる　商指

力艸とりてしらず　紀花　山蜂

果ものゝ芭蕉ゝ　寒玉

十徳の袖いかるこの秋色　夕

蕎麦ゝ蕎麦　和水

白の秋や四十日の世のくやて　芝蓋

さんくいや雑炊向て　一雀

望月て蕎の蜜林を向て　是吉

ゝるゝの匂ゝむしちゝ　林也

雪のおもひ君のやゝ名付秋　李下

窓ゝ雪ほゝひ景色ある拂子　亀翁

青石ゝ隠もおゝ礼や木槿　横几

孫ゝ鶏ゝ拾ゝ霜ゝ杖　景桃

ゝゝ木無跡ゝ雨ゝ霜柱　萍水

ちゝ船膝をかゝえゝ弦　野坡

布ゝ弦を掛ゝ蚊ゝ時雨ゝ　孤屋

油火の消ゝ悔むや冬ゝ弦　利牛

すゝ雪ゝ枝ゝ枯ゝ柳ゝ　疎雨

法然ると名をも今宵の淵り合　岱水
你川りとりつけ吟や変の名　石巣
用のさ紀なまさちとを本葉　利合
義仲寺よ来るを七師の俳りとた
吟を作れとそも隠遁の志よ
つのく一さしハ命のあすけとをちりめ
ち奥よ遠星を闇とかるの若の下
よ山和しよるの水へとをも
月宮とり飛の菴や七所　批勢

十一月十二日　初月忌

九山量阿弥亭　興行

法華寺寒菊ひとり耐ふる　嵐雪
向上躰を雪のゆるる法　桃隣
法堂のひるを遅く扇をて　岩翁
車よりとよ藪の畳り　晋子
笠賣来よ告られぬ　亀翁
う傘とちりく大字　横几

名月の松の一枝ひ付ケ　尺艸
折ふし廣ふ相の糸　松翁
白粉の落ようなる新の氣　去来
火燈ふくの引ふる中　正秀
老谷越の山よあらるゝ時　曲翠
椎の木のうるをたるが　筆
吹ふ乱ふ解ふ膝ふ押ふ　撤士
鼓ふ色し大かりなる　心主
のまぬ酒ふと盃ふ　暮四

蓮ふ生ふ舟ふ出ふ　巨海
越蛭の衣ふ絡ふ　荷分
湯ふ入ふ月ふ光ふ　舟童
ふ雲ふ山ふ見ふ窟ふ　風國
山ふの水帯ふ氣ふ　集加
柳ふの蔭ふ立ふ心ふ花ふ陰　晉子
杖ふ手ふ引ふ我ふ老ふ　重勝
うらふ和ふ尓ふ世ふ田ふ庵ふ　逢臣
塩辛桶ふ入ふ　撤士

雨の日ハ大工もあそびけるし　桃隣
ゆきハちんだとよめる柳目　嵐雪
のりものハ島の廟乃下に乗る　揖几
あそしかゆきなるの茶鍋　荷兮
うけたの金なるへ行て出陣女　去来
上品の聟をとく追合ふ　丈艸
ゆのくれもいとく扇のきしる音　風雪
乳もすみなる恋深曲乃目　岩翁
かしこまる受戒の児乃白素鎗　徹士

能としゆきた使うさなの家　晋子
あるゝ腰の起り出る夜の月　集加
檽子明きを新月の蔓　桃隣
秋風や看坊捺のおくおゝせ　巨洞
袮折の小袖居ふ成する　風雨
生りける歯をゆるしし　掛ま出人　晋子
よのまゝ非ハなきも罰りも　尺中
長旅に捺わくとける時るく斯　嵩卯
一日稼をたりよる数　心圭

桃隣

岩翁

横几

巨海

尺巾

遅参

撤士

荷兮

集加

三

肥肉

牛

撤士

集加

白粥

岩翁

撤士

集加

撫を籙(イケス)のみたる　山の景　尺巾
芝といの家をとりの世の　額　嵐雪
青の月　脚半もとられ膳後　桃隈
どこともなく　蜜柑集る　巨海
かしこの撫たるぶ　梅もぶ　芳四
うちとうの鹿　ゆく飼猿　岩翁
なるもの東(ツキ)　燈籠の立てもし　撒士
おたのみのもぶ十念　集加
産るを色　男の子　晋子

やうやうしてある　乳多乃　酒　風如
節雲のなもと　柏子　横几
情と可方　施葉　合する　尺巾
形ようこぶる　作家の人心　桃隈
蕎の中の行る　蕎(メトハキ)　芳四
思のもみ　うして亜月の泡　心圭
うい着の花　からと高義　嵐雪
色もるもと　ようく老ぶる　若竹
うう門付る　垣のいん　去来

十

米うけもつものいて通る切舟　集加
地蔵を建し字の俳諧　晋子
筆の制れしよりそ拾て　岩翁
よくそづ通すの寄る木枯　撒士
天井をかけたる蒲　尺中
うれ刈込や里の高物　荷兮
秋の夕のぼらく　八ッ下り　横几
毒虫をいとふる事の脇掛　心圭
幾形の行つる事の月　嵐雪

そうもの着よと母のせうとく　牧童
井戸ふる瘤ハ付属の祝機ふる　岩翁
ちあるうしの色落葉の井　風函
あかりを赤飯くる大井屋　集加
おりをもつる百姓の弓　晋子
日の色ハ心ちある楼古　撒士
ウ
ひ脚の色な紙　亀　尺中
向ひみるうき祝色　心圭
新大根の百士もよく　吉朱

おつゝや切干の庵の前方　荷今
なしろのみゝと梅の香質（カタケテ）　重勝
ゆ走るゝ琴を悲しむ花の夢　桃隆
蚊帳芽しくよ　行の　交り　横几

此一帖者於落柳舎書校合変

寺町二条上町井つゝや　重勝判

追加

於義仲寺六七月　惟然

若葉にせつまれ見まさる
業平紙此毛に土ほつる　正意
隅〳〵に火鉢の夢とゝ夢ゝと　卧高
明月を見てゝ夢を信ぜ　探芝
月新よ綿抱へらむ　探芝　昌房

かりにつきく 拾ふ山の名 游力
草 狩りをとをる しとをとへく 文仲
居所乃舟に 世のむ代 刺 牧業
角鹿を今にかくさぬ家中風 胡故
なをり 細よ 忠乃 名 物 直恵 上人
をやなく いつしと 梅ふ 重さを 尼 智月
ををる 孫と乃 痩 なく 惟 牧
恵ん 仲 をとを 秋乃 張 正秀
嶺よ 尚 い 鹿 咒 高 此 月 臥 る

孫 に 孫の 奥 れ 名 蓋 あ ケ く 昌房
茶を 情 か し く を を 游力
ゑ ゑ と 花 よ 夕 日 の 入 る 中 太 叫
ほ し の 様 よ む る ふ り 胡故
孫 ち よ 隠 つ れ 立 ほ ち 風 直 恵 人
芝 居 を 鼓 乃 拍 子 ま ん ま る 勇 光
む つ し を ゑ と を 和 に 出 物 を 探 芝
地 え あ つ 先 く を し る 寝 と ゑ 徽 房
塀 ち ち に 仕 ま ち を る 家 住 ま い 川 支

年れの髪に気をつく紫　丈艸
明月と海老名乃隙象也　乙州
秋は小草にまじる隠さし　曲翠
うれしさる陽子の下乃まさり酒　卧高
初秋の鶴を双六はうけ　蘋葉
五合の絲を拾る道年紅　北主
茶焼よそくあ乃卯の花　潤何
立なくぬ拾やまのそれやむ　胡故
とこの上貰うをこ味線にひく　惟然

いまはなへるに多き門流てう　道華
なしまぬうちを倦なく座るか　朴吹
二つなりと苏るく仕廻し花の顔　曲翠
むさくしあくる花乃かけるに　昌房

三の仙満座詳音々吟

肩うちしまちろき涙さくれ　作戸
美濃大垣
此悔や勝乃孫切く分さの宮　荊口

名地陸奥こそ
なを杜冊 檜ふ 隈なけを弘 文多
好肩く 剛よ 多 色 り 地
義 山 と 本 よ 敷 き し ら 蔡 蕪 詩 書
ち ち 土 り 墓 を と ら れ や 色 し ら 胡 風
草 鞋 の 泣 な ち し や 野 田 の 色 黄 色
色 ち り 紅 よ う へ ち ち あ と さ 朱 迦
文 ま け く 氷 る 隈 や 人 遠 里 東
泣 入 く 加 藤 の 遠 よ 色 さ 紅 野 経

き 霊 い 所 を な ち と り と あ と ち 藤 葉
苔 の 色 地 杖 く 甲 斐 な ち 同 ち 支 岩
清 る ま に 伊 見 へ よ 墓 の 色 竹 宮
ま ち し よ 俤 り し き ま む け ち 裾 道
切 石 と な ち 泣 り ち 紅 の 宮 危 教 信
十 方 な ち 風 や 枯 ち 柳 ち け 柯 山
月 代 を ち て し き し 城 の 多 及 肩
と 紅 を も や 色 ち 頭 陀 袋 嘯 枝

4年　月

卯月十六日芭蕉翁三十五日

於美濃仲寺奥行

墓をゝく蓮乃葉の露を持つ氷れる桃李

くるる　冬乃果の夕　霜月

なる　霧れ　結つまゝく　正夏

ゝ　晴ゝく

寺町二条ゟ下ル　筒屋庄兵衛牧

霽月十六日芭蕉翁三十五日

於美濃仲寺奥行

墓をとゝ蓮乃香を持つ氷れる桃数

みゝみくいれくる冬乃果の多 霜月

此ほとゝ春よ来るる踏れ結つまく正月

四句目より略ス

寺町二条上ノ丁

井筒屋庄兵衛板